

令和5年度第2回 四国森林管理局事業評価技術検討会 議事概要

1 開催日 令和6年2月22日(木) 14:00~15:00

2 場所 四国森林管理局 6階 研修室

3 出席者

(1) 事業評価技術検討会 委員

坂本 淳委員

ガイン デニス委員

伊神 裕司委員

(2) 森林管理局

森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長、計画課長、治山課長、

森林整備課長、資源活用課長

(説明者)

森林整備課 企画官(森林環境改善)、専門官(災害調整)、森林育成係長
路網計画係長

(事務局)

企画調整課 監査官

4 議事概要

○事前評価：森林環境保全整備事業（嶺北仁淀森林計画区）

委員：【資料2】P9の30haの天然更新は、造林事業の一部と考えてよいか。

局：造林事業で実施している。

委員：人工林の天然更新がどのように行われているか、非常に興味深いですが、P7の齢級構成のどこに該当するのか。

局：事前評価なので、P7の齢級構成には入らない。天然更新の場合は確実に更新されているかどうかの調査があり、更新されていることが確認できた時点で翌年から1齢級となる。

ただし、P7の人工林の齢級構成の図は人工林のみであり天然更新は入らない。

委員：P9の天然更新はスギ、ヒノキではないのか。

局：スギ、ヒノキではなく広葉樹。

委員：P11の低コスト化は年々難しくなっている。自動化・機械化を進める必要があると思うので、何か今の時代に対応したキーワードを入れてみるというのではないか。

現状の費用の見積もりも難しくなっているという印象があり、今回のB/Cが1.8であり、これで費用部分が倍になると評価が厳しくなる。今後どう対応していくかを考えていくことも必要となってくるのではないかと思う。

局：キーワードについては、全庁的な考え方もあるので、今後検討していきたい。

委員：P14の総費用が税抜きになっているが、間違いはないか。

局：費用も便益も税抜きで算出することとなっている。

委員：評価期間が長いものを、5年間で試算、評価するのは大変だと思うが、【資料3】P36の路網整備による増進分で、社会的割引率とはどういうものか。

局：将来の費用と現在の費用は実質的な価値が異なり、現在の費用に比べ、将来の費用の価値が低いものとされ、その価値の低減度合いを示したものである。

委員：2054年になるまで効果額が0となっているが、どう理解したらよいか。

局：P36の路網整備は新設のうち、抽出した名野谷林道専用道分である。新設の利用区域の中で、2054年に初めて主伐を迎える林齢となり、収益が見込まれることから2054年の欄に数値が計上されている。